

◆◆◆◆◆ 2019年6月22日(土) 午前の部 ◆◆◆◆◆

≪講演1≫

「ウェクスラー知能検査の改訂新版 WPPSI-III, WAIS-IV～さらに来年は WISC-V～」

【日時】2019年6月22日(土) 10:30～12:00 (90分) 【会場】淡海⑨⑩

【講師】大六一志 (NPO 法人 LD・Dyslexia センター)

【講演要旨】

幼児用知能検査 WPPSI の日本版が 48 年ぶりに改訂され、2017 年末に WPPSI-III が刊行された。また、成人用知能検査 WAIS の日本版が 12 年ぶりに改訂され、2018 年夏に WAIS-IV が刊行された。これにより、すでに 2010 年に刊行されていた WISC-IV とともに、CHC 理論に準拠したウェクスラー知能検査のシリーズが出そろったことになった。WAIS-IV と WISC-IV では検査の因子構造はほぼ同じであり、結晶性能力 (Gc)、流動性推理 (Gf)、視覚処理 (Gv)、短期記憶 (Gsm)、処理速度 (Gs) といった領域の能力を測定している。WPPSI-III については短期記憶 (Gsm) が用意されておらず、一方、理解語彙と表出語彙を測定する検査が用意されている。本講演では、これら新しい検査について改訂のポイントを紹介するとともに、来年刊行予定の日本版 WISC-V の方向性についても紹介する。

◆◆◆◆◆ 2019年6月22日(土) 午前の部 ◆◆◆◆◆

≪講演2≫

「子どもと話そう～発達障害と二次障害について～」

【日時】2019年6月22日(土) 10:30～12:00 (90分) 【会場】淡海⑦⑧

【講師】金 泰子 (大阪医科大学附属病院)

【講演要旨】

私は心身症・発達障害を専門領域とする小児科医として、発達障害のある子どもの心・身体・行動についての相談・診療にたずさわっています。二次障害と考えられる状況にある子どもと話していると、発達特性に対する理解があり、適切な対応がなされていけば避けることのできた問題が多いと感じます。

出会うきっかけは様々ですが、子どもたちは<病院の中の不思議なおしゃべり外来>でゆっくりと警戒をとき、やがて<医者とは思えない、おかしなおばちゃん先生>に胸の内を伝えてくれるようになります。かざらない言葉、豊かな表情、子どもが感じている奥深い世界の存在と心の成長に、日々驚かされてばかりいます。

この度の講演では、子どもの診療を通して学んだ、<聞くこと>、<待つこと>、そして<そのままのあなたが好き><あなたが大切>というメッセージをキチンと伝えることの大切さについて、事例を通してお話しし、皆さんとともに考えたいと思います。

◆◆◆◆◆ 2019年6月22日(土) 午前の部 ◆◆◆◆◆

≪講演3≫

「幼児期における発達障害の理解と支援」

-----  
【日時】2019年6月22日(土) 10:30~12:00 (90分) 【会場】淡海⑥

【講師】小林 玄 (立教女学院短期大学幼児教育科)

-----  
【講演要旨】

特別支援教育が開始され10余年が経過し、小中学校を中心に支援体制が整えられて来ました。今後の課題としては、小学校入学前の早期の支援の開始と義務教育終了後の支援の円滑な継続が挙げられます。本講演では、幼児期に焦点を当て、発達に偏りのある子供たちの困難さや不適応行動をどのように理解するか、また、どのように対応していけばよいかを解説していきたいと思っております。

◆◆◆◆◆

◆◆◆◆◆ 2019年6月22日(土) 午前の部 ◆◆◆◆◆

≪講演4≫

「行動問題への応用行動分析に基づくアプローチの実践」

-----  
【日時】2019年6月22日(土) 10:30~12:00 (90分) 【会場】淡海⑤

【講師】井澤 信三 (兵庫教育大学大学院)

-----  
【講演要旨】

行動理論の一つである応用行動分析では、ABC (Antecedents-Behavior-Consequences) の枠組みから行動上の問題 (行動問題) を理解し、指導・支援・対応案 (方針) を考えていきます。それは「機能的行動アセスメントに基づいた支援」と括ることができます。今回、「人の関わり方なども含めた環境の変容を重視すること」と「機能的な関係を重視すること」など、基本的なABC分析の考え方を解説します。また、通常学級でのクラス全体に適用した実践例などを含めて、アセスメントから支援案の考え方、支援の経過と修正といった実際のプロセスの具体例を紹介します。

◆◆◆◆◆